

令和6年度(令和5年度実施事業分)主要事業評価シート						No.	28-2																																								
PDCA	主要事業名	水道安定供給事業	部課名	水道部上水道課	担当 内線	石川 493																																									
P 総合計画との関係性と予算根拠	総合計画： 4 - 3 - 2 単位施策： 水道 全体事業期間： 令和 5 年度 ～ 5 年度 全体事業費等： 399,926 千円 会計 水道事業会計 歳出科目： 01.01.01（資本的支出）						目標項目（予算計上時に作成） 予算見積書で活用																																								
	事業概要等	事業概要： 配水管布設工事等を実施し、基幹管路の配水ブロック化を図るとともに、乙川中部・JR半田駅前土地区画整理事業等の新たな需要が見込まれる地域、地勢的に水圧や水量が不十分な地域への安定供給を図る。また、旧土地区画整理事業において布設した耐用年数を経過した老朽管の更新・再構築を実施する。 配水場の設備については、老朽化が進んでいることから、施設整備計画に基づいた改良工事を実施する。																																													
		事業目的： 市民へ安定した水道水の供給を図る。																																													
		事業内容： 配水管布設工事（管路網整備等、配水ブロック化、乙川中部土地区画整理事業、老朽管更新ほか）、水道施設改良工事（北部配水場）																																													
		問題点・課題等： 土地区画整理事業等の新たな需要が見込まれる地域への配水管整備は、事業の進捗に併せて実施する必要があるとともに、適正な口径を選定して安定した水道水を供給する必要がある。																																													
	予算額	主要事業とする理由																																													
	399,926 千円	水道事業者として、需要に応じて安全かつ安定的に水道水を供給する責務があるため。																																													
	財源内訳	得られる成果																																													
	市費 6,004 千円	管路網整備により、配水ブロック化を進め、安定した水圧・水量を確保することができる。また、耐用年数を経過した老朽管の更新により、漏水リスクを低減するとともに、耐震性能の向上を図ることができる。水道施設の計画的な整備・管理を実施することにより、特定の年度に突出した事業費とならないよう経営の安定化を図ることができる。																																													
	国費 0 千円	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">目標値や目指すべき状態</th> <th>令和3年度</th> <th>令和4年度</th> <th>令和5年度</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">配水管ブロック化整備率</td> <td>実績値</td> <td>96.9</td> <td>96.9</td> <td>—</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>97.7</td> <td>97.7</td> <td>100.0</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td rowspan="2"></td> <td>実績値</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">その他</td> <td>実績値</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						目標値や目指すべき状態		令和3年度	令和4年度	令和5年度	単位	配水管ブロック化整備率	実績値	96.9	96.9	—	%	目標値	97.7	97.7	100.0	%		実績値					目標値					その他	実績値					目標値					
	目標値や目指すべき状態		令和3年度	令和4年度	令和5年度	単位																																									
	配水管ブロック化整備率	実績値	96.9	96.9	—	%																																									
		目標値	97.7	97.7	100.0	%																																									
		実績値																																													
		目標値																																													
その他	実績値																																														
	目標値																																														
県費 0 千円																																															
393,922 千円																																															
D 実績値と得られた成果	決算額	得られた成果																																													
	226,444 千円	残る未整備路線のブロック化については、半田乙川中部土地区画整理事業区域内であり、事業の進捗に遅れを生じたことから、当初の予定どおり実施することができなかった。																																													
		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">成果指標</th> <th>令和5年度</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">配水管ブロック化整備率</td> <td>実績値</td> <td>97.7</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>目標値</td> <td>100.0</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						成果指標		令和5年度	単位	配水管ブロック化整備率	実績値	97.7	%	目標値	100.0	%																													
	成果指標		令和5年度	単位																																											
	配水管ブロック化整備率	実績値	97.7	%																																											
		目標値	100.0	%																																											
C 課題の整理	事業の評価・課題	C 半田乙川中部・JR半田駅前土地区画整理事業の進捗により一部先送りとなった工事もあったが、社会基盤整備に合わせた配水管布設工事を実施し、将来を見据えた管種・口径を選択し、安定した水道水を供給することができた。また、耐用年数を経過した老朽管の更新・再構築の実施については、概ね計画どおり実施し、漏水リスクの低減と耐震性能の向上を図ることができた。 水道施設改良工事（北部配水場）については、今後、受水先である阿久比広域調整池（愛知県企業庁）から直接配水する方法を検討（広域施設連携）するにあたり、施設構造が変わる可能性を考慮し後年としたため、各年度の事業費を平準化し経営の安定化が図れるよう必要に応じて施設整備計画の見直しを行う必要がある。																																													
A 課題の解決方向性に向けた	今後の事業の方向性	現状維持 配水管のブロック化については、半田乙川中部土地区画整理事業の進捗に合わせて実施する必要があるため、引き続き事業者と綿密に調整しながら早期完了を目指していく。また、新たな需要が見込まれる地域への配水管整備については、各関係者と綿密に調整することにより遅延が生じないように実施していく。 今後は高度経済成長期に整備された施設や管路が更新時期を迎えることから、持続可能な健全経営のもと、水道施設の適切な維持管理と計画的な更新及び再構築を進めながら、老朽化対策を継続して実施していく。																																													
	観点別評価	必要性		有効性		効率性																																									
		①市の関与の妥当性 妥当	④上位施策への貢献 大きい	⑦コスト削減 減余地	ある																																										
		②市民ニーズ 高い	⑤成果向上の余地 ある	※対象・手段の変更																																											
	③休廃止の影響 大きい	⑥類似事業の有無 ない	⑧受益者負担適正化余地	ない																																											

評価項目（決算時に作成）
主要施策の成果報告書で活用